

# 事務事業評価資料

施策名	生涯学習の推進、青少年の健全育成の推進			所管部局課名	企画県民部県民文化局県民生活課、青少年課				
事業名	ひょうご県民交流の船・兵庫県青年洋上大学の開催			担当者電話番号	生涯学習係 078-362-3894 育成事業係 078-362-3143				
事業目的	県民が世代を超えて洋上に集い、世代間交流、国際交流を深めるとともに、青年リーダーの育成を図る。								
事業内容	ひょうご県民交流の船(390人)、 人)			兵庫県青年洋上大学(80人)		事業開始年度	昭和46年(青年洋上)、平成元年(県民交流)		
事業に要するコスト	区分	平成19年度決算額		平成20年度当初予算額		平成21年度当初予算額			
	事業費	(0千円) 46,622千円		(0千円) 753千円		(0千円) 28,504千円			
	人件費	5,348千円	従事人員 0.6人	1,694千円	従事人員 0.2人	5,016千円	従事人員 0.6人		
	総コスト(+)	51,970千円	従事人員 0.6人	2,447千円	従事人員 0.2人	33,520千円	従事人員 0.6人		
事業の目標	交流の船・洋上大学への参加者の確保			[目標設定理由]交流の船・洋上大学への参加者等の確保により、できるだけ多くの県民に世代間交流と国際交流の機会を提供するため					
目標の達成度を示す指標	指標名	目 標		19年度実績	20年度見込み	21年度目標	達成率(%)		
		目標値	年度				H19	H20	H21
	参加者数(ひょうご県民交流の船、兵庫県青年洋上大学)	470人(定員)	21	427人(122千円)	-	470人(71千円)	90.9	-	100.0
評価結果	必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県民交流の船については、学習や交流活動において高齢者の多様なニーズが求められる中で、参加者の大半を占める高齢者の生きがいづくりや世代間交流の機会を提供していくために必要である。</li> <li>・青年洋上大学については、多様化・複雑化する青少年問題に幅広く対応するために青年リーダーを養成しており、世代間交流・国際交流を通じた唯一の青年リーダー養成事業であるため必要である。</li> </ul>							
	有効性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概ね定員に対し9割以上の参加率であり、これまでの15回の実施で約6,700人の参加を得ており、事業成果はあがっている。</li> <li>・県民交流の船においては、20年度から隔年実施で、過去の参加者とこれから参加しようとする人たちが集う機会を設けることで、新たな交流の輪も広がっている。</li> <li>・青年洋上大学については、参加者による同窓会組織である「青年洋上大学同窓会」が地域交流や国際交流イベントを実施するなど、青年リーダーの裾野の拡大や地域の活性化が図られている。</li> </ul>							
	効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団塊世代の高いニーズを考慮し、県民交流の船370人 390人、青年洋上大学100人 80人への定員の見直し、実行委員会事務局の事務経費等の削減を行うことにより、参加者一人あたりコストが削減。</li> <li>・また、船外での交流活動を拡充させ、平成20年度から隔年実施とし、効率的に事業を実施している。</li> </ul>							
	民間・市町との役割分担	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町域を超えた高齢者と青少年との世代間交流や、現地での国際交流、青年リーダーの育成を目的としていることから、県の役割として適切である。</li> </ul>							
	受益と負担の適正化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県民交流の船については、旅行経費のほぼ全額を参加者負担。青年洋上大学については、青年リーダーの育成研修を目的としているため、旅行経費の一部を県費の負担としており、負担の適正化を図っている。</li> </ul>							
実施方針	方向性	新規 廃止	拡充 縮小	継続 統合	凍結(休止)	延長	実施手法の見直し 終期設定		
	実施手法の見直し内容	市町移譲	民間移譲	民間委託	PFI	負担割合変更	事務改善	その他	
説明	<p>これまでの成果を踏まえ、さらなる世代間交流を促進することとし、船上での交流を契機とした、参加者による交流活動に加え、県民交流の船等の参加者となつながらの団体との交流を深めるなど、船外での交流を充実することとして船上、船外の交流を隔年で実施する。</p>								